

「市民創造都市」の構築に向けて

はじめに

高岡市は、慶長14年(1609年)、加賀藩前田利長公が高岡城を築いたことに始まりますが、古く天平の時代にさかのほれば、越中の国府が置かれた地でもありません。この時代に越中国守として赴任した万葉歌人大伴家持は、越中の風物に感動し、新たな歌境を開いたとされます。家持が愛した富山湾の美しい眺めは、松尾芭蕉が「おくのほそ道」に詠み、国の名勝「有磯海」に指定されました。そして、現代の「世界で最も美しい湾クラブ『富山湾』」の代表的な眺望です。

今に変わらぬ雄大な自然だけではなく、国宝「瑞龍寺」や重要文化財「勝興寺」、開町以来の街並み、国史跡「高岡城跡」などの歴

史資産、さらには「高岡御車山祭」をはじめ伝統的な祭礼行事など、市民に親しまれている多くの歴史・文化的資源に恵まれています。

このような歴史・文化環境の中で、高岡銅器、漆器、菅笠などの伝統の「ものづくりの技と心」は、豊かで個性的な町民文化をはぐくみ、平成27年、「日本遺産」に認定されました。

ものづくりのDNAは、アルミ産業をはじめとする近代産業の中にも生かされ、今日、日本海側有数の産業集積を有するに至っています。

新しいステージへ

今、高岡を取り巻く環境は、一方で全国的な構造的課題となっており、人口減少に直面し、一方でこれに対応すべく、地方への定住・移住を促進する地方創生の流れをしっ

かりと受け止め、さらに北陸新幹線開業による「ヒト・モノ・コト」の交流拡大を追い風として、新たなステージに入ろうとしています。

本市も人口減少が続いています。平成27年度には社会増減で19年ぶりに増となりました。これは平成27年に開業した新幹線効果を背景に、この地域の企業立地や雇用増が実現したことと、これまで進めてきた居住環境の整備とが総合的に効果を発揮したものです。

まちの将来像… 「市民創造都市」高岡

これらの環境変化を踏まえ、新しいまちの将来像を「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」として、今後のまちづくりを進めることとしました。

人口減少下のわが国において地域の活力を維持していくためには、市民一人一人がその能力を最大限に発揮していかなければなりません。高岡が築いてきた「文化力」や「ものづくりの技と心」を生かして、創造的に行動し、まちを活性化することが重要です。創造的な人材(ヒト)づくり、創造的な活動(コト)おこし、これらを可能とする創造的な環境(マチ)づくりを総合的に推進し、これらが循環的に、次々に連鎖を起していくなかで、「市民創造都市」を実現したいと考えています。

魅力ある「マチ」づくり

新幹線開業によって本市は、日常交通の在来線高岡駅と、広域交通拠点となる新幹線新高岡駅の2つの交通拠点を有することになりました。この2つの拠点を生かした新しい都市構造の構築が重要であり、これら両駅と既成市街地、歴史的街並みゾーンを結ぶ「都心軸」を構想し、整備を進めています。



400年以上の歴史を誇る「高岡御車山祭」

若者が中心となつてショッピングやギャラリー、カフェなど利便施設のオープンが相次いでいます。今後、都心軸に沿って、各区の特色に応じたものづくりや文化の「創造の場」づくりを進めていきたいと考えています。

特に高岡駅周辺では、これまで駅舎の橋上化、駅ビル・地下街の新改築が既に完了し、現在、市が中心となつて看護専門学校の整備を進めています。来春には学年120人規模で開校し、若人の学びと交流の場となります。これらを契機に、駅周辺地区では、ホテル、マンション、地元銀行本店の移転など、民間主導の再開発が相次いで進行しており、新たな都市機能が形成されつつあります。

また、高岡の観光拠点として期待される歴史的街並みゾーンでは、市が運営する「御車山会館」の開業に合わせ、地域の皆さんや若者が中心となつてショッピングや

魅力ある「コト」おこし、「シゴト」づくり

「マチ」づくりに呼応して、高岡の伝統ものづくりを生かし、食とクラフト食器のコラボ・メニューの開発、ものづくり体験ツアーの提案、「街中がクラフト・ミュージアム」のイベント企画など新たな「コト」が次々と起こっています。これらは新たな「シゴト」づくりに結びついて、新規創業や新商品開発が活発化し、市からの支援件数も倍増しました。研究機関をはじめ本社機能の移転や体験・見学など、産業観光を念頭に置いた工場設備の新增設なども進んでいます。魅力ある仕事のさらなる創出を図るため、新たな企業立地拠点形成が重要な課題です。

魅力ある「ヒト」づくり

今、高岡で意欲的にマチづくり、コトおこしに取り組んでいるのは、次代を担う若い世代の方々です。これらの動きを加速するには、創造的な活動に挑戦しようとする人々を育て、応援することが大切です。このため、地元大学や金融機関、行政が連携して「共創

ビジネス研究所」を開設し、起業、創業を目指す市民の皆さんの「夢」の実現を応援しています。また、全国的なネットワークを活用して「今一度、7歳の目で世界を」学ぶ「熱中寺子屋」が国宝瑞龍寺を教室にしてスタートしました。

共創のまちづくり 市民主体のまちづくり

市民創造都市を創るのは主体

的な市民の活動です。その手法として「共創」のまちづくりを提案しています。市民が、行政はもとより、企業、地域の団体はじめさまざまな主体と連携し、「共に創る」と、すなわち、目標を持ってその実現を図るため、いわゆるPDCAサイクルを取り入れて、実行性、持続性ある活動を展開します。

プロフィール

- ◆ 面積 209.57 km²
- ◆ 人口 17万4462人
- ◆ 世帯数 6万7683世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と歴史・文化につつまれ 人と人がつながる「市民創造都市」
〔まちの特徴〕新幹線開業による「ヒト・モノ・コト」が交流する歴史と文化が香るまち

〔市町村合併〕平成17年11月、旧高岡市と旧福岡町による新設合併



高岡市長
高橋正樹



〔特産品〕非鉄金属（アルミニウム）、銅器、漆器、菅笠
〔観光〕雨晴海岸、瑞龍寺、高岡大仏、高岡古城公園、勝興寺、御車山会館、藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー
〔イベント〕高岡御車山祭、高岡万葉まつり、高岡七夕まつり、日本海高岡なべ祭り、伏木曳山祭（けんか山）、福岡町つくりもんまつり、戸出七夕まつり、中田かかし祭

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「住みたい街ランキング」4年連続千葉県1位 戦略的シティーセールスで愛される「船橋」へ!

はじめに

船橋市は、東京から20km圏内に位置し、中核市最大の人口62万人を擁する都市と自然が調和したまちです。東京湾に面した沿岸部には恵み豊かな干潟「三番瀬」、内陸部に工業地、商業地、住宅地、農地が広がり、バランスの取れた産業、活発な文化・スポーツ活動が営まれ、活気にあふれています。

広報力の強化で「人と人がつながるまち」へ

大都市ほど人間関係が希薄になるといわれていますが、本市では世代や職業を超えた人がつながり、さまざまなイベントを開催するなど、新しいまちづくりが活発に行われています。今後さらにこれを推進するためには、市民の皆さん

に「住み続けたい」と思っていたただくことはもちろん、市外の人にも本市を知ってもらい「行きたい」「住んでみたい」と思ってもらいたく必要があります。幸いなことに、本市は民間の調査(※)で、住みたい都市として4年連続千葉県1位に選ばれました。今後もシティーセールスを充実させ、市のイメージや知名度の向上に努めてまいります。

平成26年8月、本市では効果的なシティーセールスを行うべく広報力の強化を図るため、任期付職員として民間から広報官を採用しました。広報官が中心となり、従来、主に記者クラブ加盟社のみを対象としていた市の情報発信を、内容により在京テレビ局などにも広げました。また、取材喚起のためプレスイベントも開始し、コストを掛けずに信頼度の高い情報を早く

広く伝えることができる「パブリシティ」をフルに活用しています。さらに、「職員一人ひとりが広報マン」をキーワードに庁内全体の広報力強化を目指した若手職員向けの「魅力発信塾」を開講し、メディアへのアプローチ方法やリリース文書の作成方法などを指導。これまで87人が受講しています。

「当たり前」がスゴイ魅力に!

住み慣れた地元の施設や産品などは身近にあるためか、その価値に気付かないことがあります。そこで本市では、平成24年から船橋ならではの加工食品や工業・工芸品を「ふなばし産品ブランド」として認証し、その魅力を市内外に発信する取り組みを開始しました。認証品は市内の大型商業施設や市内外のイベントで販売され、



平成26年度から毎年、札幌ドームをはじめ札幌市各所で「船橋のなし」のPRイベントを開催

事業者から「大幅に注文が増えた」「信頼性が高まった」などの声をいただいています。また、農水産物についても生産者とともに市内外でPR活動を展開し、認知度が徐々に高まり、特に「船橋のなし」は全国から多数の注文が舞い込む人気の特産品となりました。

平成8年にオープンした「ふなばしアンデルセン公園」は、おもてなしの精神による地道な活動が評価され、平成27年7月に世界最大級の旅行口コミサイトで人気のテーマパーク国内3位となり、市から報道発表した結果、連日テレ

※民間の調査・・・「みんなが選んだ住みたい街ランキング関東版」(リクルート住まいカンパニー)

びや新聞で大きく取り上げられ、全国から大きな注目を集めました。

スポーツや音楽で醸成するシビック・プライド

本市を語る上で「市立船橋高校」は欠かせません。さまざまな競技で全国優勝を重ねる強豪校・市船の活躍は、日本中に「船橋」の名前をとどろかせ、市民スポーツを推進させるとともに子どもたちの夢をはぐくんでくれています。

さらに、スポーツを通じたまちの活性化を図るため、平成27年5月にプロバスケットボールチームの「千葉ジェッツ」と、平成28年6月にはラグビーの「クボタスピアーズ」と、本拠地・船橋として連携協定を締結しました。特に「千葉ジェッツ」は昨シーズンのホーム試合の年間入場者数が10万人を突破し、日本バスケット界初の快挙となるなど、市民と行政が一体となってチームを応援しています。

音楽の分野でも、毎年、市内の複数の小中学校が管弦楽や吹奏楽の全国大会で1位となる活躍を見せており、また、市民と行政が一体となった楽しい音楽イベントが多数開催されています。

このような子どもたちの活躍やイベントなどが、市民のシビック・プライド（市への愛着や誇り）醸成のきっかけとなっています。

全国へ、そして世界の「FUNABASHI」

市内のさまざまな施設・公園などをロケ地にもらおうと、「ケーションガイド」撮おりゃんせ」を平成27年6月に開設しました。先に述べました情報発信の拡大による効果も併せ、近年、本市のメディア露出が急増しています。平成27年度は82のテレビ番組や映画などに登場しました。市民の皆さんにとっても嬉しいことであり、市の知名度は大きく向上しています。

また、今年6月にはJR船橋駅前に、コンビニエンスストアと併



1日平均乗車数13万5000人のJR船橋駅から徒歩1分の立地に「インフォメーションセンター」を設置

設した「インフォメーションセンター」を開設しました。市と株式会社セブナーイレブン・ジャパンが連携し運営を行うもので、年中無休・24時間で観光・行政情報をご案内し、新たなにぎわいの創出を図っています。

さらに、市の魅力を海外にも発信するため、市を紹介するリーフレットを16の言語で作成し、上記施設をはじめ市内各所に配置して

プロフィール

- ◆ 面積 85・62km²
- ◆ 人口 62万7006人
- ◆ 世帯数 27万6392世帯

〔将来都市像〕生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし

〔まちの特徴〕千葉県の北西部に位置し、古くは宿場町として栄え、都心や成田空港からも近く、充実した鉄道網など恵まれた立地条件を有し、三番瀬をはじめとする豊かな自然を残すなど、都市としてのバランスを備えたまち



船橋市長
松戸 徹



〔特産品〕地域団体商標登録された「船橋のなし」「船橋にんじん」、枝豆、小松菜、三番瀬のり、アサリ、ホンビノス貝、スズキなど

〔観光〕船橋大神宮「灯明台」、ふなばしアンデルセン公園、元南極観測船「SHIRASE5002」

〔イベント〕ふなばし市民まつり、潮干狩り、音楽のまち・ふなばし千人の音楽祭、ふなばしミュージックストリート

います。本市を訪れた外国の方々にも、現地での交流に役立つよう携行してもらっています。

4年後の東京オリンピックに向け、全国、世界の皆さんに本市を知っていただき、さらにいつの日か世界地図に「FUNABASHI」と表記されることを目指し、積極的なシティーセールスを続けていきたいと考えています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

地域の歴史・文化・産業を守り 子育て一番宣言のまちを目指す

はじめに

平成17年1月1日に松阪市、嬉野町、三雲町、飯南町、飯高町の1市4町が合併し、現在の松阪市が誕生しました。本市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に接し、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接しています。面積は東西50km、南北37kmと東西に長く延び、総面積で623・66km²と東京23区とほぼ同じ面積を有しています。

市町村合併により広域となった本市は、各地域で状況が大きく異なります。人口を見ますと、平野部では微増傾向にあるのに対し、山間部では減少傾向にあり、山間部における少子高齢化への対応が課題となっています。また平野部

においても、若者の流出を防ぐために、働く場所の確保が重要となっています。

本市は豊かな自然と文化、歴史に恵まれたまちです。国学者・本居宣長や北海道の名付け親・松浦武四郎をはじめとする郷土の偉人を数多く輩出してきました。美しい自然や歴史・伝統に基づく文化芸術は、人々に精神的な豊かさを与えてきました。合併以前より各地域が大切にしてきた歴史・文化・伝統の保存と継承に努めていくことが大切だと考えています。

豪商のまち・松阪の振興

松阪は、戦国武将・蒲生氏郷によって開かれた城下町であり、江戸時代には商人の町として栄えました。三井家・長谷川家・小津家ははじめとする松阪商人の商業活動

を通じて、松阪木綿などの郷土の品が全国へ移出されました。本年7月25日には「旧長谷川邸」が国の重要文化財に指定されましたが、落ち着いたたたずまいの中に、当時の松阪商人の隆盛ぶりがうかがうことができます。



国の重要文化財（建物）に指定された「旧長谷川邸」

こうした松阪の歴史・文化に触れてもらうための施設として、「観光交流拠点施設」の計画を現在進めています。また中心市街地にある商店街ににぎわいを創出し、活性化を図るために、空き店舗への出店や、豪商のまちにふさわしい店舗への改装費などに対して、各種補助金を整備しています。本市の歴史・町並みを大切にしながら、それに融合する形で、「豪商のまち・松阪」の振興を図っていきたくと考えています。

トップセールスによる産業振興

本年5月に開催された伊勢志摩サミットでは、松阪牛や松阪赤菜、松阪茶がG7首脳と配偶者の皆さまの食事に使用されました。このような重要な席で、本市の特産品が使用されたことは、誠に光栄なことでした。

伊勢志摩サミット開催を好機ととらえ、新たな販路の拡大に努めています。今年に入ってから

香港、米国、シンガポールを訪れ、特産松阪牛のトップセールスを行いました。香港、シンガポールに対する松阪牛の輸出は今回が初めての試みでした。松阪牛をはじめとする特産品のトップセールスは、一過性の取り組みに終わることなく、継続して着実に進めていきたいと考えております。

さらにさまざまな企業のトップに直接お会いし、トップセールスを行うことにより今後成長が期待できる産業の企業誘致を戦略的に進め、本市として景気変動を受けにくい、強靱^{きょうじん}で多様な産業構造の構築を目指しています。このことにより安定的な雇用機会を創出



郷土の誇りである「松阪牛」

し、若者や女性、高齢者、障がい者をはじめ誰もが活躍できる社会をつくっていききたいと考えております。また、市内企業の新たな事業展開を促進する支援や、新たな取り引きにつながるビジネスマッチングの支援にも積極的に取り組み、産業振興施策を推進していきます。

子育て一番宣言のまち

私は市長就任当時から「子育て一番宣言」を掲げてきました。子育てで世帯が安心して子どもを育てることのできる環境づくりが必要であると考えています。

本年10月に新施設へ移転した「松阪市子ども発達総合支援センター・そだちの丘」では、心身の発達に心配のある子どもに対して、年齢や発達の段階、傾向に合わせた療育や訓練を行っています。多様化する子どもたちの障がいに対する支援の充実を目指すとともに、保護者が一人で不安を抱え込むことのないよう、職員が一緒に考えて考え、訓練等専門職員や専門機関と連携を取りながら、途切れない支援を目指していきます。

また、本年7月20日には「松阪市イクボス宣言」を行いました。県内の自治体首長では鈴木英敬知事に次いで、2人目のイクボス宣言となりました。「イクボス」とは職場で共に働く部下のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）を考慮し、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事

と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のことを指します。市役所内における超過勤務の縮減などに取り組んでいくと同時に、市内にイクボスを増やすため、企業への働き掛けを積極的に行っていきます。

子育て一番宣言のまち、松阪市の実現に向け、全力で取り組んでいく決意です。

プロフィール

- ◆ 面積 623・66km²
- ◆ 人口 16万6769人
- ◆ 世帯数 7万2410世帯

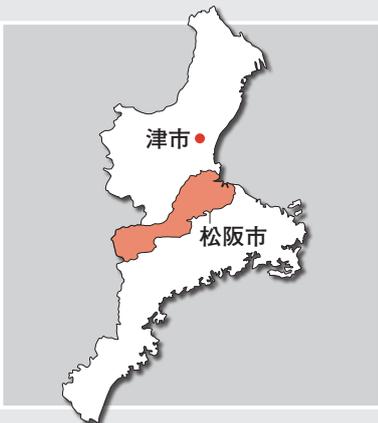
〔将来都市像〕ここに住んで良かった
…みんな大好き松阪市

〔まちの特徴〕世界ブランド「松阪牛」のふるさとであり、豊かな自然に恵まれている。数多くの偉人を輩出しており、歴史的文化遺産が多く残る

〔市町村合併〕平成17年1月1日、松阪市・嬉野町・三雲町・飯南町・飯高町の1市4町が合併



松阪市長
竹上真人



〔特産品〕松阪牛、松阪茶（深蒸煎茶）、松阪赤菜、松阪木綿

〔観光〕松坂城跡（松坂公園）、御城番屋敷、本居宣長記念館、旧長谷川邸、松浦武四郎記念館、松阪農業公園ヘルファーム

〔イベント〕松阪祇園まつり、氏郷まつり、初午まつり、宣長まつり、武四郎まつり、松阪牛まつり（松阪肉牛共進会）

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

地域自らを磨いて 市内外の人選ばれるまちへ

江の川が日本海に注ぐ
「河口のまち」

中国地方最大の大河、江の川。中国山地の水源から194km、多くの支流の水を集め日本海に注ぐ河口に、江津市は位置しています。「江津（川の港）」の名の通り、古くは江の川河口の港として発展し、江戸時代には北前船の寄港地として栄



5月にはこいのぼりも泳ぐ中国地方一の大河江の川

えました。かつての中心地であった江津本町には江戸時代に建築された商家の家屋なども多く残り、往時の面影を今にとどめています。

江の川を通じた地域間のつながりも深く、平成16年に同じ江の川流域の桜江町と合併し現在の市域となりました。

良質な粘土層に恵まれていることから、日本三大瓦の一つ、石州瓦の産地としても知られます。「来待色」とも呼ばれる赤瓦は寒さに強く、耐久性に優れ、全国各地に流通しています。市内には江津本町をはじめ赤瓦の町並みが広がり、地元のアイデンティティーにもなっています。

創業支援から働く場を作り、人材を呼び込む

全国的に、少子高齢化や都市部

への流出による人口減少が問題になっていますが、本市も例外ではありません。平成16年の合併時に2万8000人余りだった人口は、同22年の国勢調査では2万5782人にまで減り、前回調査と比較した減少率7.2%は県内8市で最大を記録しました。

当時の本市では、製造業などの大規模事業所が相次いで閉鎖し、これらが人口減少に少なからず影響していました。働く場所の確保は喫緊の課題ですが、企業立地は一朝一夕にできるものではありません。そこで本市が着目したのは「創業支援」でした。働く場所が少ないならば、働く場所を創造できる人を発掘し、育てようとしたのです。新たな人材を求めて平成22年に始めたのが「江津市ビジネスプランコンテスト（通称：GoIcon）」でした。



江戸時代の雰囲気が今も残る江津本町薨街道

これまで6回開催した中で、GoIconの大賞受賞者から7件の新規創業が実現しています。これらの大半はUITターン者によるもので、その業種もカフェレストランに工房、地ビール醸造など個性豊かです。GoIconの強みは、何

と言ってもサポート体制の充実。行政、商工会議所、金融機関が一体となって起業者を支援します。それは大賞受賞者に限らず、コンテストをきっかけに起業した人たちに対してもです。行政と民間の間に入って支援活動を担うNPO法人も立ち上がり、今ではまちづく

りの重要な核になっています。

これらの取り組みにより、本市は外部から「何かができるまち」「挑戦者を受け入れるまち」との評価を受けるようになり、平成25年には「過疎地域自立活性化優良事例表彰」で総務大臣賞を受賞しました。

創業支援とともに並行して進んでいた企業誘致も実を結び、平成26年から27年に掛けて、工業団地に4社が新規立地・増設しました。これらの成果により、平成26年度に社会動態が半世紀ぶりにプラスへ転じました。

新しい色が生まれるように、 たくさんの方が集う場に

本年8月には、中心市街地における長年の課題であった江津駅前



今夏にオープンし住民活動の拠点として期待される「パレットごうつ」

再開発の拠点施設「パレットごうつ」がオープンしました。子育てサポートセンターや観光情報センター、社会福祉協議会など6団体が集まったほか、市民団体活動室やフリースペースなど市民活動の拠点機能もあります。

愛称の「パレット」には、新しい色が生まれるように、たくさんの方が集い、活動や交流の場になっています。先日は、シンボルとなる大屋根の下で若者たちによるゲーム大会も開かれるなど、多様な使われ方が見られてきました。「パレットごうつ」が中心市街地の活性化とともに、市民が創造力を発揮する場になるよう願っています。

GO▼GOTSU! 山陰の「創造力特区」へ。

平成27年12月、進行する人口減少社会への対応として取り組むべき「江津市版総合戦略」を策定しました。総合戦略では、本市の目指す将来の姿を「地域自らを磨いて、市内外の人を選ばれる地域になること」としました。そのためには、ここに暮らす人々が「新たなことに挑戦する気質」や「生きる力」を

養うことができる環境を整え、さらに「挑戦する人を応援する風土」を培うことが求められます。

これらの考えに立ち、総合戦略の基本理念を「GO▼GOTSU! 山陰の『創造力特区』へ。」という言葉に込めました。

このスローガンをつくる過程では、多くの市民の皆さまに参画をいただき、まちの将来像をイメージする言葉を収集しました。その

プロフィール

- ◆ 面積 268・24 km²
- ◆ 人口 2万4401人
- ◆ 世帯数 1万1559世帯

〔将来都市像〕GO▼GOTSU! 山陰の「創造力特区」へ。

〔まちの特徴〕中国地方最大の大河、江の川が日本海に注ぐ、挑戦者を受け入れる「河口のまち」

〔市町村合併〕平成16年10月1日、桜江町を編入合併



江津市長
山下 修



多くが、「挑戦」「可能性」「アイデア」や「起業」など、前向きな言葉でした。このまちの前向きな気持ち、スローガンにこもっています。今後、総合戦略と「GO▼GOTSU! 山陰の『創造力特区』へ。」をさまざまな機会を通じて市民の皆さまと共有し、一丸となって地域自らを磨き「市内外の人を選ばれるまち」の実現に向けて取り組んでいきます。

〔特産品〕石州瓦、石見焼、ゴボウ、江津まる姫ポーク、桑茶
〔観光〕江津本町壺街道、有福温泉、しまね海洋館アクアス(浜田市と隣接)
〔イベント〕ピクニックラン桜江、江の川祭、江津市石見神楽大会、江津本町壺街道ふらり

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。